

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム サニーテラス 1階		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9-204-3		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 12 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgyvsvoCd=2170500769-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgyvsvoCd=2170500769-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年2月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なかなか沈下しないコロナ過の中で、ご利用者様の外出の機会がなかなか確保できず、皆様へのご不満な毎日が続いております。代わりにテレビの映像を取り入れた体操や、外出したような風景を流したりして楽しんで頂いております。また、自分らしい生き方が出来るだけ出来るように、ご本人様に寄り添いながらの生活の提供を行っております。一言に言ってもなかなか上手くはいかないことが現実です。しかし、あらゆる方向から出来るだけ意に添えるように日々情報の共有をしながら近づけてゆきます。また、ご家族様にもご心配をお掛けすことのないように日々何かあった時にだけではなく、日ごろの状況をお伝えすしながらご安心をしていただける努力をしております。共同生活とはいえ、自分らしい生活の提供に今後力を注ぎたいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの玄関前には、広い芝生の広場があり、また、前の長いテラスは、日当たりが良く、利用者が気軽に散歩を楽しめる空間となっている。さらに、敷地内には託児所があり、幼児が芝生広場で遊ぶ様子をフロアから眺めたり、交流したりしている。ホームは、地域医療に注力しているクリニックを母体とした法人グループの一員として、フェニックスコミュニティの連帯の中で、施設間の有機的な業務連携ができており、ホーム運営力の強化につながっている。また、人材育成体制が充実しており、法人内で研修計画を策定し、職員個々の状況に応じた研修を実施している。さらに、託児所の設置や職員の希望や家庭事情に応じた勤務体制の構築等、ワークライフバランスに配慮した働きやすい就業環境ができており、ワークエンゲージメントの向上にもつながっている。法人グループの価値観を「Way」として理念化し、『何でも言うて下さい。私たちも一緒に頑張ります』というミッションステートメントを明示し、利用者本位のケア実践に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	情報のパス、観察のラン、連携のスクラム無事故のトライ！ ～職場環境の改善～ 毎朝の朝礼で理念を連呼しながら一日が始まることで新鮮な気持ちで仕事に望めています	法人の理念や職員の行動指針等が書かれた小冊子を全職員が携行し、意識を高めている。毎日の朝礼にて、項目を抜粋して読み上げ、共通理解を図り、理念に基づくケア実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市から配られる市民だよりなどを用いて少しでも地域との触れ合いが遠ざからないようにしております	自治会に加入する等、地域の関係を大切にしている。また、市政だよりや地域雑誌等を活用し、地域の情報を得ている。コロナ禍の影響が続いており、ボランティアの受入れは基本的には控えているが、少人数によるオカリナ演奏会を開く等して、少しずつ、地域の方とのふれあう機会を増やしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も書面上となり開催はできませんでしたが、利用者様の日頃の活動や状況などの提供を行い、見える化に力を注ぎました	コロナ感染予防のため、運営推進会議は書面開催とし、アンケートを添付して配付し、意見の収集に努めている。転倒事故の再発防止等に意見をいただき、居室内の動線を工夫する等、ホームの運営に役立てている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあった時は、連携をとるにあたり密な連絡を取るよう心がけている。また、不明な点が出てきたときは、こちらから連絡を入れて周知出来るようにしている	行政の担当者や地域包括支援センター職員とは、運営推進会議に対する書面でのやり取りや事故報告、運営状況の報告等を通じて、連携を深めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ拘束から遠ざかる工夫をみんなで話し合い、共有をしている。毎月のカンファレンスでも検討をしながら継続のない方向に繋げている	身体拘束廃止マニュアルがあり、定期的に勉強会も開かれている。現在、拘束にあたる事例はないが、過去には点滴の際に、拘束対応が必要なケースがあったとの事である。対応が必要な場合は、毎月のカンファレンスの中で皆で検討を行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の事であるために、職員の不満や体力のことなどが原因で利用者様にその行き先が向かないようにゆとりが持てるような職場環境の提供に努めている。また、虐待の勉強会などの資料を用いての理解を深める	入浴の実施日や一日あたりの入浴人数を変更したり、薬の保管場所を変更したりして、業務の効率化を進める中においても、ゆとりをもった対応ができる仕事環境を整備している。「ちょっと待って」等のスピーチロックにつながる声かけについても勉強会で話し合い、注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	お一人の利用者様が成年後見人制度の利用をされているので、話には聞いていたがこんな仕事をするの理解が出来る職員が増えたことがよかった。また、ご家族が不安にならないようにこのような制度の活用が出来ることの情報も提供		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初から最後まで重要事項説明書を見ながらの説明をしてゆき、ご納得が行くまで説明を行います。また、利用が始まってご不満な点は電話にてご説明をさせて頂く事もありました		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などの制限が続く中、ガラス越しなどの面会後にご家族様との時間を設けて、ご利用者様の日頃の生活ぶりや、ご家族様からのご要望をお聞きしています。また、その内容を他の職員にも共有をしてみました	家族の面会後の時間を活用し、ホームでの生活の様子を報告したり、要望を聞く等している。外泊や外食等の希望があるが、コロナ禍においては対応が制限されることも多い。しかし、必要に応じて、短時間での外出支援を行ったり、行事食の際には希望に沿ったメニューを提供する等して、サービスの質の向上につなげている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、毎月ある戦術の会議、リスク会議などで職員の意見などの情報を発表できる場を設けております。また、その意見に対しての他の方からの意見も頂きながら反映させています	カンファレンスは毎月開催され、利用者の接遇に限らず様々な事柄についての意見交換を行っている。法人内で開催される戦術会議や支援会議には主任や管理者が参加し、情報共有ができるようになっている。また、個人面談の機会が年2回、設けられていて、運営に関する意見を聞く機会にもなっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	一人一人の家庭の環境が違うので出来るだけ意に沿った働き方が出来るように努力をしてみました。感染になった時などはみんなでカバーしながら利用者様にご迷惑がかからないようにも皆で配慮しました	子どもの体調や学校行事等、職員の様々な都合に合わせて、時間や休みの調整を行っている。ワークライフバランスに配慮した働きやすい就業環境ができており、ワークエンゲージメントの向上にもつながっている。また、職員はお互い様の意識を持ちフォローし合っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響もあり実際の研修はできないことが多かった。しかし、研修は出来なくても個々の得手不得手を理解して、出来るだけモチベーションを上げれる声掛けなどをおこなった	年間の研修計画が策定されている。コロナ感染症予防のため、集合形式の研修会開催は制限的にならざるを得なく、書面によるものが中心になっているが、カンファレンスの時間を活用し、職員のスキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交流はコロナの関連もあり出来なかった。しかし、幸い隣に同じグループホームひだまりがあるため、情報の共有などが出来ました		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしい生活の提供に努めました。もしも？自分だったらと自問自答しながら一つの答えだけではなく傾聴を重視しました		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やってあげるが親切である、との勘違いをしないように、出来ないことは出来るようになるように支援する。その中でできないことの支援をしてきました。また、意向があった場合も出来るだけ添えるように傾聴をしてその目的に近づく努力をしました	日々の生活の中で、コミュニケーションを通じて、利用者の意向把握に努めている。意向の把握が困難な方の場合でも、表情や行動の背景を考え、意向を読み取るよう意識している。また、声かけに「そうそう」と迎合的に応答される場合があるため、その方の思いを探索するようにしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに介護の現場を利用者様のプランに添えるように行っております。また、状況が変わるときはカンファレンスなどや、急な状況の時は直ぐに話し合いそのケアに反映させております	6カ月に1回を目安にケアプランを更新している。また、心身状態に変化があった場合には、その都度、見直しを行っている。また、面会時に家族から情報収集したり、意向を聞いたりしている。変更したプランは職員間で共有している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌があるためそのノートに記載して情報共有を行っております。また、その内容がケアプランに沿わないときはケアマネに相談をして計画の変更を行っております	食事や排泄、バイタル等は、チェック表を用いてモニタリング等の情報共有に活かしている。また、状態が変化した場合については、特記事項として記録に残し、処遇方法の変更や使用する器具の変更等があれば、プランに反映させるようにしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に伴う時は、ご家族の思いも載せて法人内にある「支援会議」を利用してご本人にあった場所の提供が出来るように話し合う事が出来る	別々のホームに入居していた家族を同じホームで利用したいというニーズに合わせ、調整を行ったとの事である。利用者、家族の要望や、利用者の状態に変化がある場合には、法人内の支援会議で柔軟な支援を行うべく、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大きな祭りなどは自粛しましたが、各ユニットでの祭りなどは行いました。また、ガラス越しではありますが、施設内の用事を預けるテットからの訪問などに楽しめました。また、コロナが少しだけ5類に移行した際にご利用者様のご家族様のボランティアにてコカリナの演奏などが聞けました		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	我がフェニックスがかかりつけの医療機関だということもあり、何かあった時は直に適切な医療提供ができます。また、他の専門分野となると情報の提供をもとに次の医療機関に繋げることが出来ました	契約時、かかりつけ医の選択が可能であることを説明しているが、母体が医療機関であるため、利用者は法人内の医療機関をかかりつけ医として選択している。他科受診の場合は、サマリーを提供し、適切な医療が受けられるように連携している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」という機関があるため医療関連は連携体制が取れています	入院時は、利用者の情報を介護サマリーとして提供している。入院期間中は、地域連携室が利用者の状態を問い合わせ、医療機関と連携の下、受け入れ体制を整えて、早期の受け入れを行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居された時に説明の中で重度化した時の対応の説明もさせて頂いております。また、そのようなときがおと連れた時は、ドクターを交えて、看護師も含め必要な書類を作成後チームで支援をしてゆきます	終末期は、本人や家族の意向を踏まえ、看取りケアを選択された場合には、居室で家族との大切な時間を過ごせるよう支援をしている。安心して納得した最期を迎えられるよう職種間で情報共有しつつ、利用者・家族に寄り添った支援を行っている。また、看取りカンファレンスで振り返りを行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルなどを用いての勉強会などの知識をもとに実践をしております		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ過に伴い、実際の訓練はできてはいない。しかし、非常口の確保のために物を置かないように工夫をしたり、車椅子の確保や、どこから出てどこに集まるなどの周知を図る	敷地内に同法人の他事業所があり、災害時の食糧や水、薬、オムツ等の必要物品は複数の場所に備蓄している。一目で分かるよう写真等を活用したBCP計画を作成し、災害時の避難場所を周知している。	今後、地震や火災発生時における一時待機場所の確認や避難場所までの誘導方法について、昼夜それぞれのケースにおいて、さらなる検討及び情報共有を図りたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私たちがから見れば先輩でもあるため、人格の尊重を心掛けて、きちんと名前前で呼ぶようにしている。ちゃん付けは行ってない。また、トイレに入る際は出来るだけドアをしめるようにしたり、出来ないときはカーテンを使用して配慮しています	利用者の人格を尊重する視点に立ち、アセスメントから一人ひとりに合わせた声かけを行っている。声かけの際は、不快な思いをしないよう名前の呼び方に留意している。また、トイレが頻回な方には、居室の扉を開けるとトイレにつながる部屋の案内をする等、羞恥心に配慮をした支援を行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時などの飲み物の提供時は出来るだけ本人様のご希望に添えるようにしている。糖尿病の方の甘未はラカントを使用して希望に添えている。また、活動に参加するときにも声掛けをして嫌そうなときは強制しないようにしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れは決まっているが、晴れた日はベランダで食事をしたり、交流広場が開いているときなどはそこで運動などをしたりしている。その時もここに沿った希望を優先している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎが来たときは剥いていただいたり、お盆を拭いていただいたり、食事の前には必ずメニューのお知らせをしています。また、出来るだけ温かいものは温かいまま、冷たいデザートなどは出来るだけつめたいままの提供が出来るようにしています	情報誌やテレビを一緒に見ながら、お寿司を食べたいという要望に、出前の寿司を提供し、大変喜ばれたとの事である。また、桜餅やおはぎと一緒に作ったり、干し柿や梅ジュースを作ったりしている。季節の食材を使ったり、一緒に行事の食べ物を作ることや食事を楽しむことを大切に支援に努めている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった形態や器の提供を行っております。また、体重を管理している為あまりにも体重増加の方はドクター、家族とも相談後主食のgを減らしたり、逆に減少している方にはタロリーが摂れる栄養補助食品の提供の支援		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践で、3か月に一度の適検診があるのでドクターからの助言をもとにケアにあたる。また、入れ歯の洗浄にも役立つように洗浄剤の使用や、歯ブラシの老朽化に伴いご家族への依頼をかけることの手助けを行いました	3ヶ月に1回、歯科による往診がある。口腔内の状態は記録して、ファイリングし、普段のケア方法のアドバイスを記載している。自歯、義歯を色分けする等、わかりやすく記録することで普段のケアの中で、異変の早期の発見に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間などの排泄にリスクが伴う方への配慮として、適切なオムツの提供を行い質の良い眠りの提供に心がけております。また、曖昧な方には定期的なトイレへの誘導をしながらの配慮		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	以前9人を一日で入浴をしていただいていたが、職員の負担や、利用者様がゆっくりと入浴が出来るように一日3人の入浴に切り替えて、月～土曜日までの毎日を入浴日としました。おかげさまで皆さんの行き届いたケアができたと感じています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎朝、昼すぎのバイタル検査を行いながらその方の体調変化に気づきながら、その状況にあった工夫をしております。例えば血圧の低い人はベッドに横になり足をあげて頂いたり、夜間明るくて眠れない方の部屋の前には明かりを小さくするなど工夫をさせていただきました		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターとの連携の中で、ご本人の状況を常に把握し、情報提供に支援をおこなう。また、定期的に服用が出来るように管理させていただきながら健康の維持に努めております	服薬ケースは、色分けしたシールを使用し、朝、夕等、袋の数だけシールを貼ることで何包あるか確認しやすくしている。また、内服後、空の袋を元に戻し、確実に内服介助ができていることも確認する等、誤薬防止を徹底している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前にご家族様からの情報をもらえる資料が(バックグラウンドアセスメント)あるため、それをもとに出来ることの把握や出来たことの提供を行っております	利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重する観点から、園芸が趣味の方には、庭いじりをしてもらったり、書道をしていた方には、正月にリビングに飾る書初めをお願いしたりしている。このように、一人ひとりが生き活きとできる場所の提供をしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により外出はできてはいませんが、以前回転ずしが食べたいとのご希望があった利用者様が行けずいたので、許可をもらいお寿司の提供を行いました。今後も皆様のご希望に沿った提供が出来るように努力をします	コロナ禍の影響が継続し、外出制限があるが、家族からお祝いとして、家族旅行の要望があり、調整を行い、実現することができたとの事である。利用者それぞれのニーズや家族の要望に合わせて希望を叶えられるよう、支援を行っている。また、日常的には、近所を散歩し、季節を感じたりする等、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お気持ちはわかるのですが、現在サニーではトラブルの原因となるので一切お金のお預かりはしておりません。しかし、計画書にて外出などがあるときなどは事前に連絡をして小口でたてかえをしております		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話への繋ぎのお手伝いや、手紙を書きたいといわれる方はいないが、手紙が来たときは手渡しをして、一緒に喜んでいただけるように声掛けをしています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日室内の温度確認、湿度確認、換気、また、光の調節のためのカーテンなどに配慮しております。また、利用者様の作品や、季節に合った提示物の提供にも力を注いでおります	リビング兼食堂は、サニーサイドに面しており、明るい空間である。季節の飾りや作品、手作りのカレンダーが飾られており、アットホームな雰囲気が感じられた。また、利用者の思いや利用者同士の関係性に配慮し、家具の配置をしていて、利用者がそこかしこで思い思いに過ごすことができる居心地の良い空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ過により皆で一緒に座って、、とのがなかなか出来なくなりました。そこでテーブルの間にパーテーションを入れたり、パーテーションが出来ないときは机やソファを離して皆さんの居心地を意識して模様替えをしてきました		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	想いでの品物や、ご本人様が使用していた衣服や布団などの導入を図りながら、少しでも不安のないようにしております。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒しそうな方の部屋にはマットを敷き詰めて少しでも転倒後の衝撃が無いように工夫をしています。また、トイレの位置がわからないためトイレのマークの提供、部屋の前に名前の表示、また、歩行に関してのご本人にあった歩行器の提供		



### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム サニーテラス 2階		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9-204-3		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 12 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=2170500769-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=2170500769-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年2月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過に伴い出来るだけの外出の支援を行えるようにしております。昨年は桜見に行けなかったの  
で、少し月を過ぎましたが近くの公園まで散歩がてらドライブに出かけることが出来ました。久しぶりのド  
ライブに終始そわそわワクワクの連続でしたが楽しんでいただいたご様子が印象的です。このように出  
来るだけの外出支援に力を入れております。また、この環境の中で少しでもADLが落ちないためにも  
YouTubelによる体操の取り入れや、交流広場での歩行などの支援をしています。あるいは、季節の梅、  
柿などの提供をもとに皮むきやジュース作りのお手伝いをしながら楽しんでいただいております。昨年  
は感染にかかったことが原因でかなりのQOLの変化もあった。出来るだけ以前に近づけるようにご本人  
様の意向も配慮して体力維持に努めております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	情報のパス、観察のラン、連携のスクラム無事故のトライ！ ～職場環境の改善～ 毎朝の朝礼で理念を連呼しながら一日が始まることで新鮮な気持ちで仕事に望めています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市から配られる市民だよりなどを用いて少しでも地域との触れ合いが遠ざからないようにしております		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も書面上となり開催はできませんでしたが、利用者様の日頃の活動や状況などの提供を行い、見える化に力を注いでできました		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時は、連携をとるにあたり密な連絡を取るよう心がけている。また、不明な点が出てきたときは、こちらから連絡を入れて周知出来るようにしている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ拘束から遠ざかる工夫をみんなで話し合い、共有をしている。毎月のカンファレンスでも検討をしながら継続のない方向に繋げている		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の事であるために、職員の不満や体力のことなどが原因で利用者様にその行き先が向かないようにゆとりが持てるような職場環境の提供に努めている。また、虐待の勉強会などの資料を用いての理解を深める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	お一人の利用者様が成年後見人制度の利用をされているので、話には聞いていたがこんな仕事をするの理解が出来る職員が増えたことがよかった。また、ご家族が不安にならないようにこのような制度の活用が出来ることの情報も提供		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初から最後まで重要事項説明書を見ながらの説明をしてゆき、ご納得が行くまで説明を行います。また、利用が始まってご不満な点は電話にてご説明をさせて頂く事もありました		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などの制限が続く中、ガラス越しなどの面会后にご家族様との時間を設けて、ご利用者様の日頃の生活ぶりや、ご家族様からのご要望をお聞きしています。また、その内容を他の職員にも共有をしてみました		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、毎月ある戦術の会議、リスク会議などで職員の意見などの情報を発表できる場を設けております。また、その意見に対しての他の方からの意見も頂きながら反映させています		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	一人一人の家庭の環境が違うので出来るだけ意に沿った働き方が出来るように努力をしてきました。感染になった時などはみんなでカバーしながら利用者様にご迷惑がかからないようにも皆で配慮しました		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響もあり実際の研修はできないことが多かった。しかし、研修は出来なくても個々の得手不得手を理解して、出来るだけモチベーションを上げれる声掛けなどをおこなった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との交流はコロナの関連もあり出来なかった。しかし、幸い隣に同じグループホームひだまりがあるため、情報の共有などが出来ました		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしい生活の提供に努めました。もしも？自分だったらと自問自答しながら一つの答えだけではなく傾聴を重視しました		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やってあげるが親切である、との勘違いをしないように、出来ないことは出来るようになるように支援する。その中でできないことの支援をしてきました。また、意向があった場合も出来るだけ添えるように傾聴をしてその目的に近づく努力をしました		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランをもとに介護の現場を利用者様のプランに添えるように行っております。また、状況が変わるときはカンファレンスなどや、急な状況の時は直ぐに話し合いそのケアに反映させております		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌があるためそのノートに記載して情報共有を行っております。また、その内容がケアプランに沿わないときはケアマネに相談をして計画の変更を行っております		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に伴う時は、ご家族の思いも載せて法人内にある「支援会議」を利用してご本人にあった場所の提供が出来るように話し合う事が出来る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大きな祭りなどは自粛しましたが、各ユニットでの祭りなどは行いました。また、ガラス越しではありますが、施設内の用事を預けるテテットからの訪問などに楽しめました。また、コロナが少しだけ5類に移行した際にご利用者様のご家族様のボランティアにてコカリナの演奏などが聞けました		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	我がフェニックスがかかりつけの医療機関だということもあり、何かあった時は直に適切な医療提供ができます。また、他の専門分野となると情報の提供をもとに次の医療機関に繋げることが出来ました		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」という機関があるため医療関連は連携体制が取れています		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居された時に説明の中で重度化した時の対応の説明もさせて頂いております。また、そのようなときがおと連れた時は、ドクターを交えて、看護師も含め必要な書類を作成後チームで支援をしてゆきます		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルなどを用いての勉強会などの知識をもとに実践をしております		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ過に伴い、実際の訓練はできてはいない。しかし、非常口の確保のために物を置かないように工夫をしたり、車椅子の確保や、どこから出てどこに集まるなどの周知を図る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私たちから見れば先輩でもあるため、人格の尊重を心掛けて、きちんと名前と呼ぶようにしている。ちゃん付けは行っていない。また、トイレに入る際は出来るだけドアをしめるようにしたり、出来ないときはカーテンを使用して配慮しています		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時などの飲み物の提供時は出来るだけ本人様のご希望に添えるようにしている。糖尿病の方の甘未はラカントを使用して希望に添えている。また、活動に参加するときにも声掛けをして嫌そうなときは強制しないようにしている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れは決まっているが、晴れた日はベランダで食事をしたり、交流広場が開いているときなどはそこで運動などをしたりしている。その時もここに沿った希望を優先している		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎが来たときは剥いていただいたり、お盆を拭いていただいたり、食事の前には必ずメニューのお知らせをしています。また、出来るだけ温かいものは温かいまま、冷たいデザートなどは出来るだけつめたいままの提供が出来るようにしています		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあつた形態や器の提供を行っております。また、体重を管理している為あまりにも体重増加の方はドクター、家族とも相談後主食のgを減らしたり、逆に減少している方にはタロリーが摂れる栄養補助食品の提供の支援		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践で、3か月に一度の適検診があるのでドクターからの助言をもとにケアにあたる。また、入れ歯の洗浄にも役立つように洗浄剤の使用や、歯ブラシの老朽化に伴いご家族への依頼をかけることの手助けを行いました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間などの排泄にリスクが伴う方への配慮として、適切なオムツの提供を行い質の良い眠りの提供に心がけております。また、曖昧な方には定期的なトイレへの誘導をしながらの配慮		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	以前9人を一日で入浴をしていただいていたが、職員の負担や、利用者様がゆっくりと入浴が出来るように一日3人の入浴に切り替えて、月～土曜日までの毎日を入浴日としました。おかげさまで皆さんの行き届いたケアができたと感じています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎朝、昼すぎのバイタル検査を行いながらその方の体調変化に気づきながら、その状況にあった工夫をしております。例えば血圧の低い人はベッドに横になり足をあげて頂いたり、夜間明るくて眠れない方の部屋の前には明かりを小さくするなどの工夫をさせて頂きました		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターとの連携の中で、ご本人の状況を常に把握し、情報提供に支援をおこなう。また、定期的に服用が出来るように管理させていただきながら健康の維持に努めております		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前にご家族様からの情報をもらえる資料が(バックグラウンドアセスメント)あるため、それをもとに出来ることの把握や出来たことの提供を行っております		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により外出はできてはいませんが、以前回転ずしが食べごたいとのご希望があった利用者様が行けずにいたので、許可をもらいお寿司の提供を行いました。今後も皆様のご希望に沿った提供が出来るように努力をします		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お気持ちはわかるのですが、現在サニーではトラブルの原因となるので一切お金のお預かりはしておりません。しかし、計画書にて外出などがあるときなどは事前に連絡をして小口でたてかえをしております		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話への繋ぎのお手伝いや、手紙を書きたいといわれる方はいないが、手紙が来たときは手渡しをして、一緒に喜んでいただけるように声掛けをしています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日室内の温度確認、湿度確認、換気、また、光の調節のためのカーテンなどに配慮しております。また、利用者様の作品や、季節に合った提示物の提供にも力を注いでおります		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ過により皆で一緒に座って、、とのがなかなか出来なくなりました。そこでテーブルの間にパーテーションを入れたり、パーテーションが出来ないときは机やソファを離して皆さんの居心地を意識して模様替えをしてきました		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	想いでの品物や、ご本人様が使用していた衣服や布団などの導入を図りながら、少しでも不安のないようにしております。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒しそうな方の部屋にはマットを敷き詰めて少しでも転倒後の衝撃が無いように工夫をしています。また、トイレの位置がわからないためトイレのマークの提供、部屋の前に名前の表示、また、歩行に関してのご本人にあった歩行器の提供		